

## 熱海のヒラメ放流と西伊豆のカサゴ放流

熱海市では、令和3年6月に大熱海漁協という漁協網代支所がヒラメ稚魚の放流を行いました。放流されたヒラメ稚魚は、御前崎市の静岡県温水利用研究センターで生産された平均全長約3mmの種苗を、令和3年5月6日から陸上水槽で中間育成してきたものです。

大熱海漁協では、令和3年6月2日に伊豆山と曾我浦に放流を行い、放流時の平均全長は69.4mm、放流数は約6,400尾でした。例年、市内の小学生が漁船に乗船して放流を行い、当场からはヒラメの生態や放流の目的について説明していますが、今年も昨年につき、新型コロナウイルス症拡大防止のため、漁業者のみで放流を行いました。また、大熱海漁協は上多賀においても、6月21日に平均全長98.4mm、に育ったものが放流されました。

いとう漁協網代支所では6月7日にヒラメ稚魚の放流を行い、放流時の平均体長は69.4mm、放流尾数は約5,800尾でした。

西伊豆町では、5月28日にカサゴ稚魚の放流が行われました。この取組みは西伊豆町田子に工場を持つ民間企業が水産資源の確保と地域貢献を目的に、伊豆漁協田子支所や関係者の協力を得て行われています。放流されたカサゴ稚魚は愛知県の民間種苗生産会社から購入したもので、各地区の放流尾数は田子6,000尾、仁科1,800尾、安良里1,800尾でした。また一部は、西伊豆町内の3つの子供園の園児によって、大田子海岸から放流されました。その際に当场からは、園児達にカサゴの生態などについて説明しました。

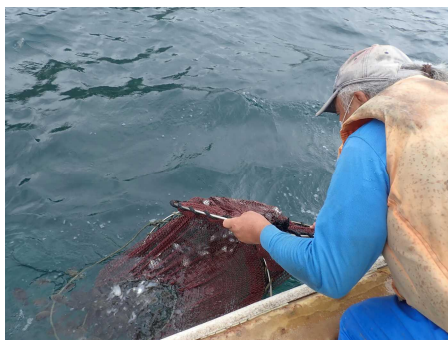


写真1 ヒラメ稚魚の放流（上多賀）



写真2 説明を聞く園児（田子）

（橋詰悠斗）